

科目名	がん看護学演習 I			分野・必選別・単位数	専門科目 (がん看護学)	選択	2単位
担当教員	◎教授 南川雅子					科目ナンバー	T2C132
課程	博士前期	配当年次	1年または2年	配当学期	通年	授業方法	演習
授業の概要	患者ががんおよびその治療過程で受けた身体・心理・社会的な障害に対し、セルフケア能力を高めて適応するために必要ながんリハビリテーションにおけるがん看護専門看護師としての看護介入の方法を探究する。						
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. がんリハビリテーションの目的と、がんリハビリテーションの各段階における看護の特徴について説明できる。 2. がんや治療によって患者にどのような障害がもたらされるか概説できる。 3. がんリハビリテーションを行う際のリスク管理について説明できる。 4. がんリハビリテーションにおける専門看護師の役割と機能を踏まえ、個別的な援助計画を立案できる。 5. 援助計画を確実に臨床に適用可能なものとして行うことができる。 						
授業計画	回数	担当者		行動目標			
	1	南川 雅子	教授	がんリハビリテーションの基礎① がんリハビリテーションを学ぶための基礎となる概念、目的、がんリハビリテーションの段階と看護の特徴について説明できる。			
	2	南川 雅子	教授	がんリハビリテーションの基礎② がんリハビリテーションを学ぶための基礎となる概念、目的、がんリハビリテーションの段階と看護の特徴について説明できる。			
	3	南川 雅子	教授	がん、およびがん治療によってもたらされる障害① がん、およびがん治療によってもたらされる障害について説明できる。			
	4	南川 雅子	教授	がん、およびがん治療によってもたらされる障害② がん、およびがん治療によってもたらされる障害について説明できる。			
	5	南川 雅子	教授	がん、およびがん治療によってもたらされる障害③ がん、およびがん治療によってもたらされる障害について説明できる。			
	6	南川 雅子	教授	リスク管理① がんリハビリテーションを安全に実施するために必要なリスク管理について説明できる。			
	7	南川 雅子	教授	リスク管理② がんリハビリテーションを安全に実施するために必要なリスク管理について説明できる。			
	8	南川 雅子	教授	がんリハビリテーションにおける看護介入の検討① 文献検討、理論やエビデンスに基づいて、予防的、回復的、維持的、緩和的リハビリテーションにおけるがん看護専門看護師としての看護介入の方法について検討する。			
	9	南川 雅子	教授	がんリハビリテーションにおける看護介入の検討② 文献検討、理論やエビデンスに基づいて、予防的、回復的、維持的、緩和的リハビリテーションにおけるがん看護専門看護師としての看護介入の方法について検討する。			
	10	南川 雅子	教授	がんリハビリテーションにおける看護介入の検討③ 文献検討、理論やエビデンスに基づいて、予防的、回復的、維持的、緩和的リハビリテーションにおけるがん看護専門看護師としての看護介入の方法について検討する。			
	11	南川 雅子	教授	がんリハビリテーションにおける看護介入の検討④ 文献検討、理論やエビデンスに基づいて、予防的、回復的、維持的、緩和的リハビリテーションにおけるがん看護専門看護師としての看護介入の方法について検討する。			
	12	南川 雅子	教授	がんリハビリテーションにおける看護介入の検討⑤ 文献検討、理論やエビデンスに基づいて、予防的、回復的、維持的、緩和的リハビリテーションにおけるがん看護専門看護師としての看護介入の方法について検討する。			
	13	南川 雅子	教授	がんリハビリテーションにおける看護介入の検討⑥ 文献検討、理論やエビデンスに基づいて、予防的、回復的、維持的、緩和的リハビリテーションにおけるがん看護専門看護師としての看護介入の方法について検討する。			
	14	南川 雅子	教授	がんリハビリテーションにおける看護介入の検討 文献検討、理論やエビデンスに基づいて、予防的、回復的、維持的、緩和的リハビリテーションにおけるがん看護専門看護師としての看護介入の方法について検討する。			
15	南川 雅子	教授	がんリハビリテーション演習① がんリハビリテーションにおけるがん看護専門看護師としての実践における各自の課題を検討し、フィールド演習を通して明確化する。				
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	看護介入の方法を検討するための文献検討、理論やエビデンスの検討を主体的に進める。					
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、文献等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。					
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。					
教科書	辻哲也:がんのリハビリテーションマニュアル, 医学書院, 2011. 辻哲也:実践!がんのリハビリテーション, メヂカルフレンド社, 2007. 島崎寛将, 倉都滋之, 山崎圭一, 江藤美和子編:緩和ケアが主体となる時期のがんのリハビリテーション, 中山書店, 2013. その他、随時紹介する。						
参考書							
成績評価の方法および基準	プレゼンテーションと質疑応答50%、レポート50%により評価する。						
その他履修上の注意事項	フィールドワークを行う。 試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP2が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。						